

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【鈴谷小・中・中等教育学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p>&lt;学習上の課題&gt;言葉の意味の理解等、基礎的な力が不足している。語彙と文構造の理解に課題がある。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt;系統的、継続的な読解力を付ける手立てが十分でない。</p>	<p>⇒ 教科問わず、不明な言葉の意味を辞書で調べたりして理解を深めたり、広げたりする学習活動を意図的、計画的に実施する。また、身に付けた知識を他の教科等や生活の中で活用させるなど、技能を働かせる学習を意図的に計画する。【市学習状況調査・国語「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の得点向上(前年度同学年比)】</p> <p>⇒ 「読み聞かせや朝読書を充実させる。【市学習状況調査・生活「1日あたりの読書時間」の増加(同集団経年比)】</p> <p>⇒ 「研修の時間を活用し読解力向上に向けた指導技術の向上を図る。【市学習状況調査・国語「知識・技能」の得点向上(前年度同学年比)】</p>
思考・判断・表現	<p>&lt;学習上の課題&gt;「話の中心を聞き手に伝えるための話し方」に課題がある。算数「データの活用」での無回答率が高い。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt;自分の考えや意見を表現することのよさを十分に教えられていない。</p>	<p>⇒ 「5W1Hや要点を明確にした文章や発表メモなどを基に話者が伝えたいことを適切に伝える力の育成【教職員アンケートによる調査、市学習状況調査・国語「思・判・表」の得点向上(前年度同学年比)】</p> <p>⇒ 「児童の思考を促し、適切に表現できる力を育成するための指導方法を工夫する。【算数科における「算数」の習熟度別学習、教科担任制等】算数「データの活用」での無回答率の低下(同集団経年比)】</p> <p>⇒ 「自己の考え等を発信することへの評価方法の工夫改善【本校独自の児童アンケート結果、市学習状況調査・国語「話すこと・聞くこと」の得点向上(同集団経年比)】</p>

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語について、全体的に全国平均値を上回り、よくできている。主語・述語の関係を抑える問題に課題が見られた。継続的に、語彙と文構造の理解に努めているが、定着に時間がかかっている。全体的に無回答率が低い傾向であるが、問題の最後になるにつれて、無回答率が上がっている。タイムマネジメントに課題が見られる。算数についても、全体的に全国平均値を上回り、よくできている。除数が小数である場合の計算や除数と商の大きさの関係について課題が見られた。小数の意味を抑え、実生活と結びつけられた問題等に取り組むことを重視していく。	
思考・判断・表現	算数の折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題に課題が見られた。「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか」における肯定的な回答の割合は83%であることから、さらに、ポイントとなる数字や言葉を意識しながらまとめる活動を重視していく。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査 <小3~中3>(1月)	
知識・技能		
思考・判断・表現		

③	分析共有(児童生徒の実態把握)	中間期報告	中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	教科問わず、不明な言葉の意味を辞書やPCで調べたりして理解を深めたり、広げたりする学習活動を実施した。さらに、身に付けた知識を他の教科等や生活の中で活用させるなど、技能を働かせる学習を進めていく。図書ボランティアによる読み聞かせや朝読書を週1回行い、さらに、読書習慣が身につくよう工夫した読書週間の取組を計画した。研修の時間を活用し読解力向上に向けた指導技術の向上を引き続き、推進する。	変更なし
思考・判断・表現	A	教科の他にも特別活動、行事等で5W1Hや要点を明確にした文章や発表メモなどを基に伝えたいことを適切に伝える場面を設定し、指導した。特に算数科において児童の思考を促し、適切に表現できる力を育成するため、SAの配置や習熟度別少人数指導等工夫した指導を行うことができた。自己の考え等を発信することへの評価方法の工夫改善について、研修の時間を活用し、行っていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)